

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

今回も大変多くの皆様にご参加いただきました。誠にありがとうございます。7月下旬から私どもの対外的な活動をオンラインも活用しながら再開してまいりましたが、早いもので今回が5回目、運輸政策コロキウムは先月に続いて2回目となります。

さて、本日は、当研究所のマハラジャン研究員より、「持続可能性を考慮したサプライチェーン構築」というテーマで研究発表を行い、その後、いつもの通り、議論を深めていきます。当研究所では、誠に残念ながら最近では物流をテーマにした研究やセミナー・コロキウムが必ずしも十分ではなく、手薄になっておりましたが、物流分野の重要性を考えますと、この分野の活動の一層の充実を図る必要があることから、昨今、研究所として、力を入れて取り組んでいるところです。本日は、物流、サプライチェーンマネジメントを専門とするマハラジャン研究員による研究成果の報告を中心とするコロキウムを開催することになりました。

マハラジャン研究員は、ネパールのご出身で、本年1月から当研究所の研究員として活動を共にしております。当研究所は、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、代々、外国人の優秀な研究者を研究員として迎えており、今年4月以降はたまたま一人ではありますが、過去にはマハラジャン研究員の先輩にあたるネパールからの研究員や、韓国、中国、ベトナム、カンボジア、フィリピン、トルコ等のアジア諸国から、また、ドイツ、フランス、ポーランド、カナダ等の欧米から、さらにアフリカのエチオピア等から、さまざまな外国籍の研究員が在籍し、研究に取り組み、大変立派な成果を収められ、現在はそれぞれ本国で活動されているという経緯、実績があります。マハラジャン研究員にとっては、今回の発表が、当研究所の研究員としては、初めて外部に研究成果を発表する機会となります。

本日の研究発表は、既に多くの方がご存知かと思いますが、国際的に権威ある(OECDの)国際交通フォーラム(ITF; International Transport Forum)のAward2020でTop4に選ばれた論文に基づくもので、マハラジャン研究員が博士号を取得した東京工業大学において、当研究所に移る直前まで研究を続けて、当研究所の着任直後にITFに投稿し、高い評価を受けられました。当研究所としては、マハラジャン研究員の今後の活躍を大いに期待しているところです。発表の詳しい内容については、このあと、山内所長から説明します。

マハラジャン研究員の講演の後、コメンテータとして、東京工業大学の鈴木定省准教授からコメントをいただきます。その後に山内所長がモデレーターとなり、皆様との間で質疑応答という流れになっております。

最後に、本日のコロキウムが、ご参加いただいております皆様方にとりまして真にお役に立つものとなりますことを期待して、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。